

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4079500122		
法人名	有限会社 亀ハウス		
事業所名	グループホーム 亀ハウス (2ユニット)		
所在地	〒822-1314 福岡県田川郡糸田町中糸田3122番地3	0947-26-3434	
自己評価作成日	平成25年10月17日	評価結果確定日	平成25年11月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

・利用者様一人一人に自由な空間があり、希望に添えるケアに取り組み、利用者様とスタッフが和気藹々となり、笑顔・笑い声が絶えない場所です。  
 ・当苑の2大イベントの5月の亀ハウス祭り・9月の夕涼み会(花火大会)は、ご家族の方・地域の方・地域のボランティアの協力があり、盛大に催されています。  
 ・月に1回外食会とショッピングを行い、天候の良い日は苑外散歩・ドライブサービスを行い、利用者様の気分転換を図っています。  
 ・4月の花見・8月の盆踊り大会・10月の英彦山参拝日帰りツアー・11月の紅葉見学を行い、利用者様に四季を感じて頂けるよう努めています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php">http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	093-582-0294	
訪問調査日	平成 25年11月05日		

**. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼時に復唱、共有し実践につなげている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	常時、スタッフ一人一人、近所の方との挨拶を心がけ実践出来ている。 苑行事、地域行事の際は声を掛けさせて頂き参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回苑の祭りに地域の方にも参加して頂き理解を求め、外出行事の際にも地域の老人会の方のボランティアでの参加し頂き、触れ合いの場を設けている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、その際に活動報告、現状報告を行っている。また、会議の際の助言などを取り入れサービス向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月苑だよりを配布し、報告を行っている。また、町主催の敬老会・文化祭に参加、地域のカラオケ大会・盆踊り大会に参加し、良い関係性を築けるよう取り組んでいる。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加。参加したスタッフが勉強会で発表し身体拘束を行わないケアを行っている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加。参加したスタッフが勉強会で発表し、スタッフ間で声を掛け合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加。参加したスタッフが勉強会で発表し、スタッフ一人一人が理解出来るように努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に、施設長より十分に説明して頂き理解・納得を図っている。 一部交付している。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃、利用者様と関わりあいを持ち利用者様の声を聴くように心掛けている。また、ご家族の面会時にスタッフとの話し合いを設け意見・要望などを取り入れられよう取り組んでいる。		
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会・スタッフ会議でスタッフに各々の意見を聞き出し、ケアに反映している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの声を聞き入れ、一人一人が働きやすく、また向上心を持って働けるよう努めている。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用については施設長が判断している。それぞれの能力が発揮出来るよう取り組んでいる。 年齢性別の制限はない。		
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	毎月1回勉強会、スタッフ会議を設け取り組んでいる。 毎朝、朝礼時に施設長、上司が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外部の研修会に参加し、スタッフ一人一人が向上心を持って各自のスキルアップに努めている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入している。同じ系列のグループホームの方と交流の場を設けている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設長・上司が面会を行い状況把握を行う。その後、スタッフに申し送り、利用者様と話し合いを設け、良い関係作りを努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設長・上司がご家族との話し合いを設け、その後、スタッフに申し送り対応している。また、面会時にも話し合いも場を設けその都度、要望などを聞き入れられるよう取り組んでいる。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設長・上司が本人とご家族の方との話し合いを行う。その後、スタッフに報告があり対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは日々、利用者様と関わる体制性を作っている。その中で、利用者様と食事後の後片付けなどを一緒に行ったり、利用者様一人一人の要望などを聞き入れ良い関係を築けるよう努めている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様とご家族との関係性をよく理解し、それに対応した支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	月に1～2回ドライブサービス・苑外散歩を行い利用者様の馴染みの場所に行ったり、地域行事に参加する事で関係性を保てるよう努めている。		
23		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	食事や10時・15時のおやつの際グループ分けを行い利用者様同士の会話を楽しくて頂けるよう努めている。また、誕生会・その他レクリエーションに参加して頂き関わっていただいている。		
24		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	苑でのイベントへの参加を電話やはがき等を送り参加を促している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	日々、利用者様一人一人と関わりあいを持ち思いや希望を聞き出せるよう努めている。またスタッフ一人一人、目配り・気配り・心配りを徹底している。		
26		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	本人様とご家族と話し合いを設け生活暦などの把握に努めている。 一人暮らしの方は本人様からの情報が不十分のため身近な方から話を聞くが困難な場合がある。		
27		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	日々利用者様とスタッフが関わりを持つことで現状の把握に努めている。		
28	13	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	毎月のスタッフ会議にて意見を出し合い、また利用者様との話しやご家族の面会時に要望などを聞き、介護計画を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、スタッフは利用者様と関わり合いを持ち、状態観察などを行い、変化があれば個別のケース記録に記入している。 朝礼時・終礼時にスタッフ間で申し送りを行い情報を共有し、実践・介護計画の見直しを行っている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・ご家族の方と話し合いを設け、本人様に合わせたサービスを行えるように取り組んでいる。(特養など)		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を通して、地域の民生委員・老人会の方のボランティアとしての協力体制を作り支援している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様とご家族の希望に添えるよう、話し合いを通して支援している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕にバイタルチェックを行い状態管理に努め、特変時などの際は、直方在宅診療所の看護師に報告し、指示を仰いでいる。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、定期的に面会に出向き、主治医・看護師と情報交換を行い状態の把握に努めている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族・施設長・医療機関と話し合いを設け、今後の方針を検討し支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会の際、定期的に救命措置訓練を取り入れスタッフ全員が学んでいる。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スタッフは、各自消火器のある場所と使用方法は把握している。年に2回、避難訓練を行うようにしている。 また、運営推進会議を通して、地域の方の協力が得れるよう働きかけている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の性格などを職員は把握し、日々言葉遣いなどには、気を付け声掛けを行っている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフは、常に利用者様の声に傾聴する姿勢を心がけ、利用者様の思いを大切にケアに取り組んでいる。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフは、利用者様一人一人の生活状況を把握し、利用者様に合わせたケアを日々心がけている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、訪問理容を利用し利用者様の意見を尊重し整髪して頂いている。また、行きつけの美容院がある利用者様には、スタッフが同行し支援している。 身だしなみは、利用者様と話をし利用者様の希望を取り入れている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、利用者様とスタッフが一緒に食事をし穏やかなで楽しい環境で食べて頂けるよう取り組んでいる。 食後の後片付けも利用者様とスタッフが一緒にやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事摂取量などをチェックし一人一人に合わせた支援を行っている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、就寝前にポリドント洗浄を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	随時、声掛けを行いトイレ誘導を行っている。また利用者様の訴え時にトイレ誘導を行っている。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、利用者様一人一人の排便チェックを行い、確認が取れない際は、トイレ誘導時に腹部マッサージを行ったり、また主治医の指示の元、服薬にて対応している。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴を行い清潔保持に努めている。入浴の際は、利用者様のペースに合わせたケアに心がけ、入浴を楽しんで頂けるよう努めている。 夜の入浴は勤務体制上、困難。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日その日の生活のリズムに合わせて休んで頂いている。 居室の温度調節などに気を付け、気持ちよく眠れるよう心掛けている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から発行される薬の種類・注意点などが記載された用紙を各利用者様用のファイルを作り、確認が取れるようにし、服薬支援・管理を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみ・食器拭き、または、将棋やトランプなどを行い、利用者様一人一人に合ったケアを行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望がある時は、いつでも散歩や買い物に行けるような体制を作っている。ご家族・地域の方の協力を得て、苑外レクリエーションを行っている。(初詣・英彦山参拝など)		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の力に合わせてお金を所持して頂いている。所持されている利用者様に関しては、随時スタッフ2人で確認を行っている。自己管理が難しい利用者様に関しては、施設側で管理し、ショッピングなどの際に使用されている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら公衆電話を使用されたり、利用者様が希望された際はスタッフが電話をかけ、ご家族などとお話をされる支援を行っている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた、飾り付けに努めている。室内の温度調節を行い、日差しが強い日などブラインド・カーテン・簾などを利用し調整している。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様一人一人、自室を持っており一人になる時間がある。また、食堂のテーブルやソファを利用して利用者様同士、思い思いに過ごされている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様とご家族と話し、使い慣れたものを使用して頂けるようにしている。ない方に関しては、ご家族に相談の上、購入させて頂いている。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食器拭き・将棋・トランプ・塗り絵・編み物など利用者様一人一人の力に合わせた支援を行えるよう努めている。		